

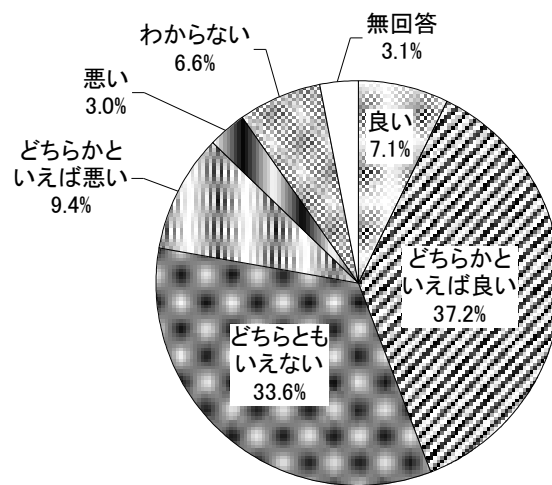
## 10 犯罪と治安対策について

### (1) 県内の治安状況

問38 あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,356]

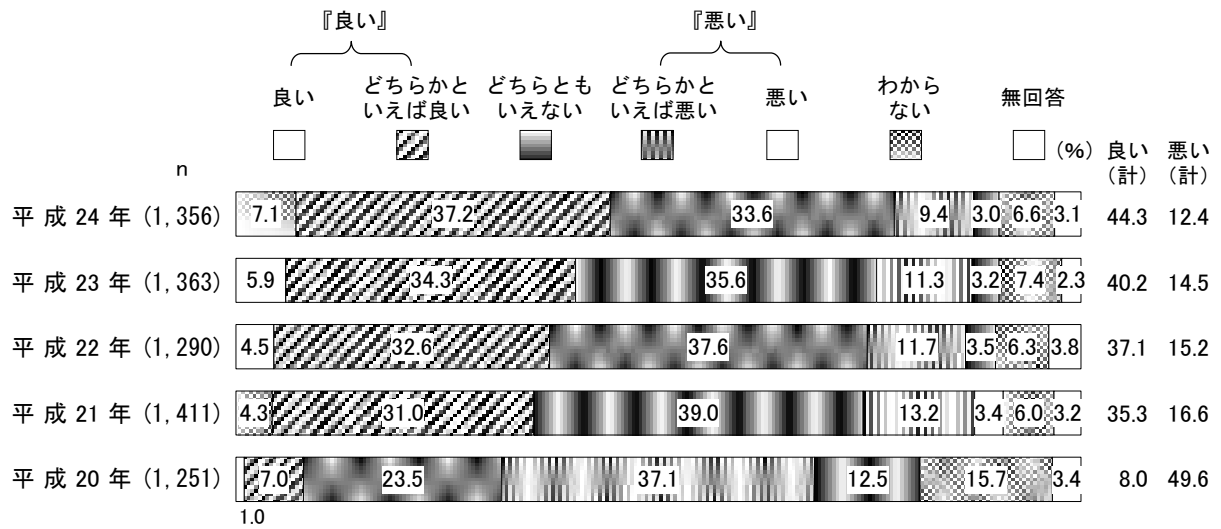
1	良い	7.1%	4	どちらかといえば悪い	9.4%
2	どちらかといえば良い	37.2%	5	悪い	3.0%
3	どちらともいえない	33.6%	6	わからない	6.6%
				(無回答)	3.1%



(n=1,356)

全体で見ると、「良い」(7.1%)と「どちらかといえば良い」(37.2%)の2つを合わせた『良い』(44.3%)が4割半ばとなっている。一方、「どちらかといえば悪い」(9.4%)と「悪い」(3.0%)の2つを合わせた『悪い』(12.4%)は1割を超えている。また、「どちらともいえない」(33.6%)は3割を超えている。

[過去の調査結果]

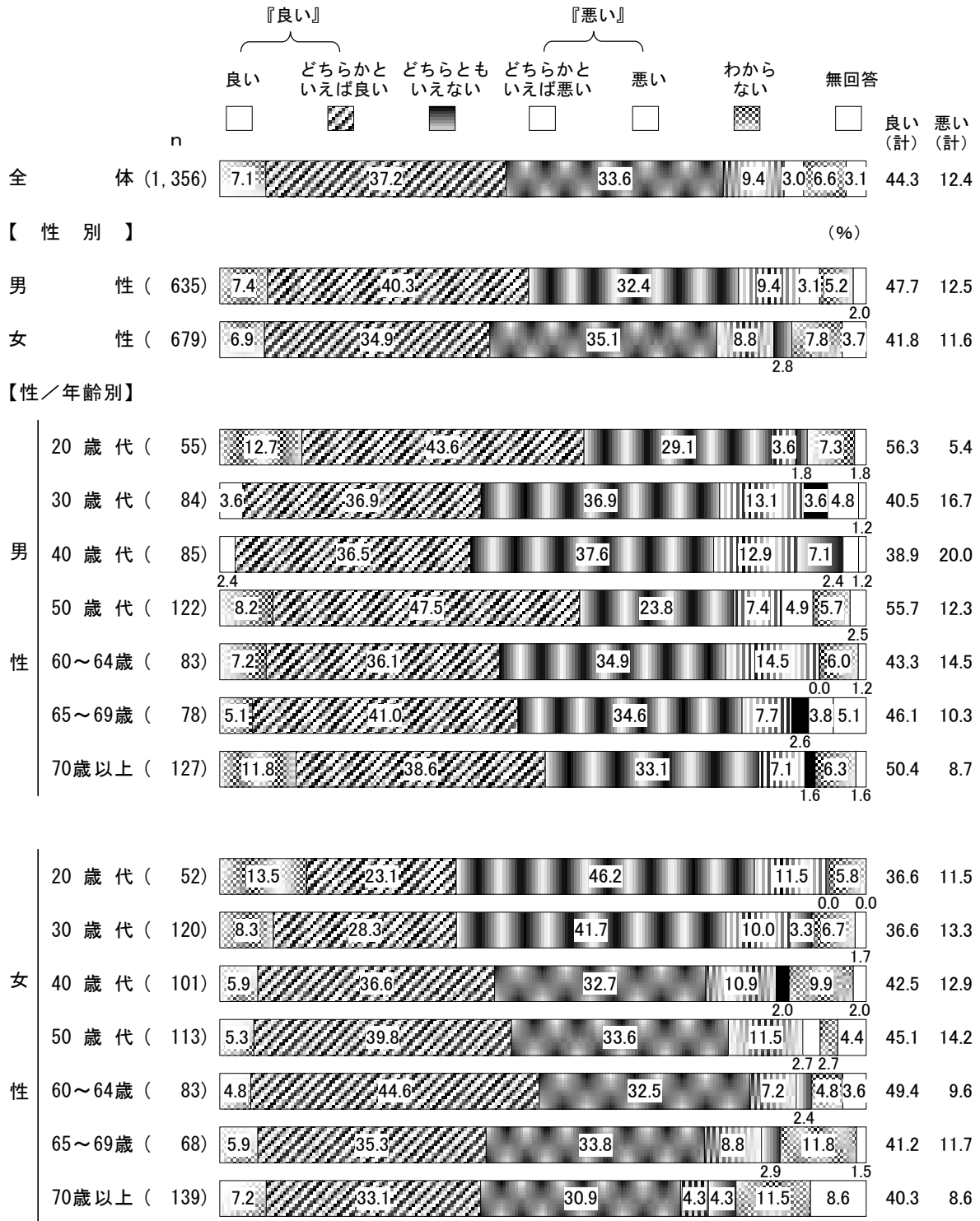


※選択肢の変更

平成20年		平成21年～24年
「良くなっている」	→	「良い」
「どちらかといえば良くなっている」	→	「どちらかといえば良い」
「変化はない」	→	「どちらともいえない」
「どちらかといえば悪くなっている」	→	「どちらかといえば悪い」
「悪くなっている」	→	「悪い」
「わからない」	→	「わからない」

過去の調査結果と比較すると、『良い』は増加傾向にあり、前回（平成 23 年）と比べて 4.1 ポイント増加している。

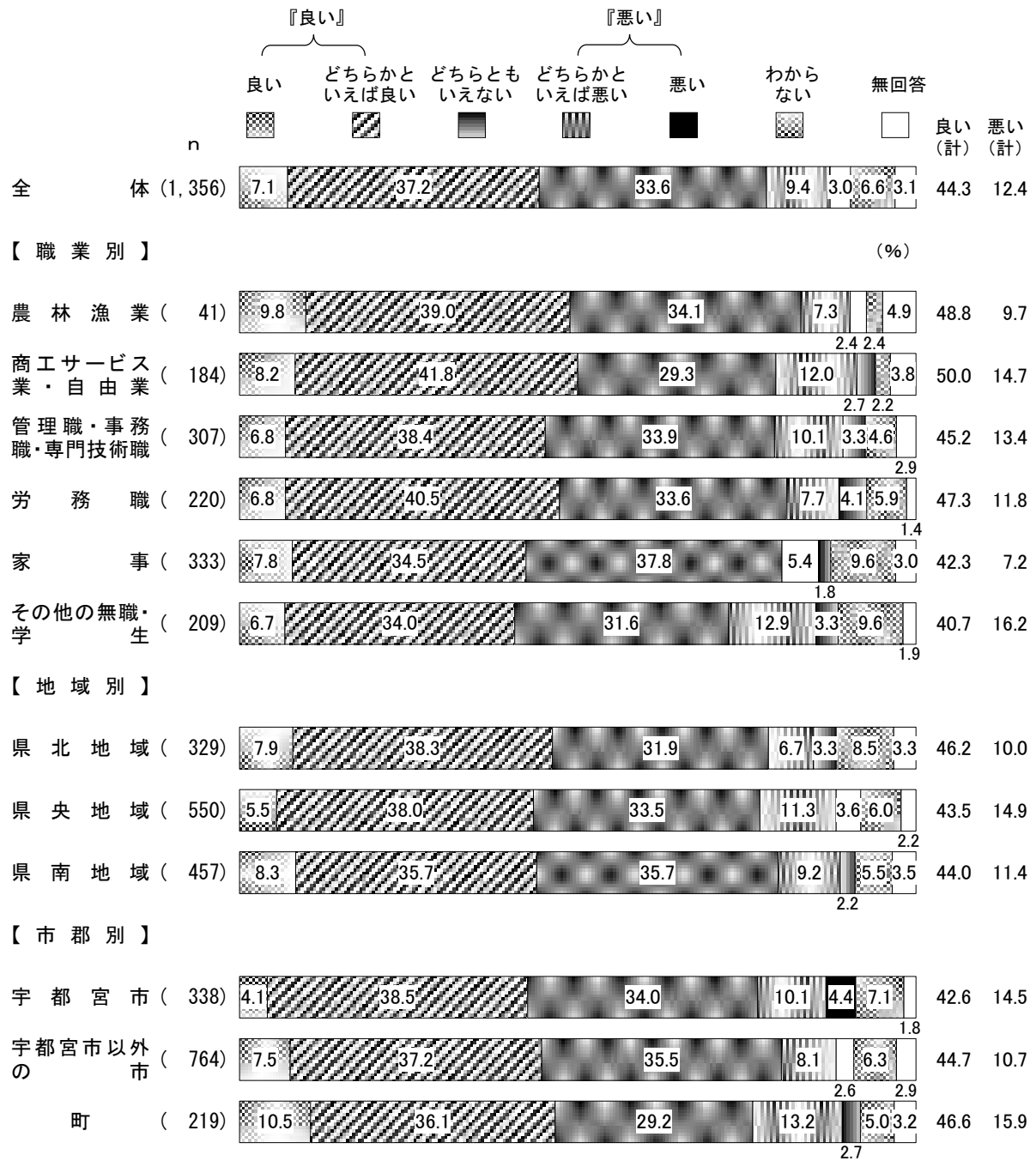
【性別・性／年齢別】



性別でみると、『良い』では〈男性〉(47.7%)が〈女性〉(41.8%)より5.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『良い』では〈男性20歳代〉が56.3%、〈男性50歳代〉が55.7%と高くなっている。

[職業別・地域別・市郡別]



職業別でみると、『良い』は〈商工サービス業・自由業〉が50.0%となっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

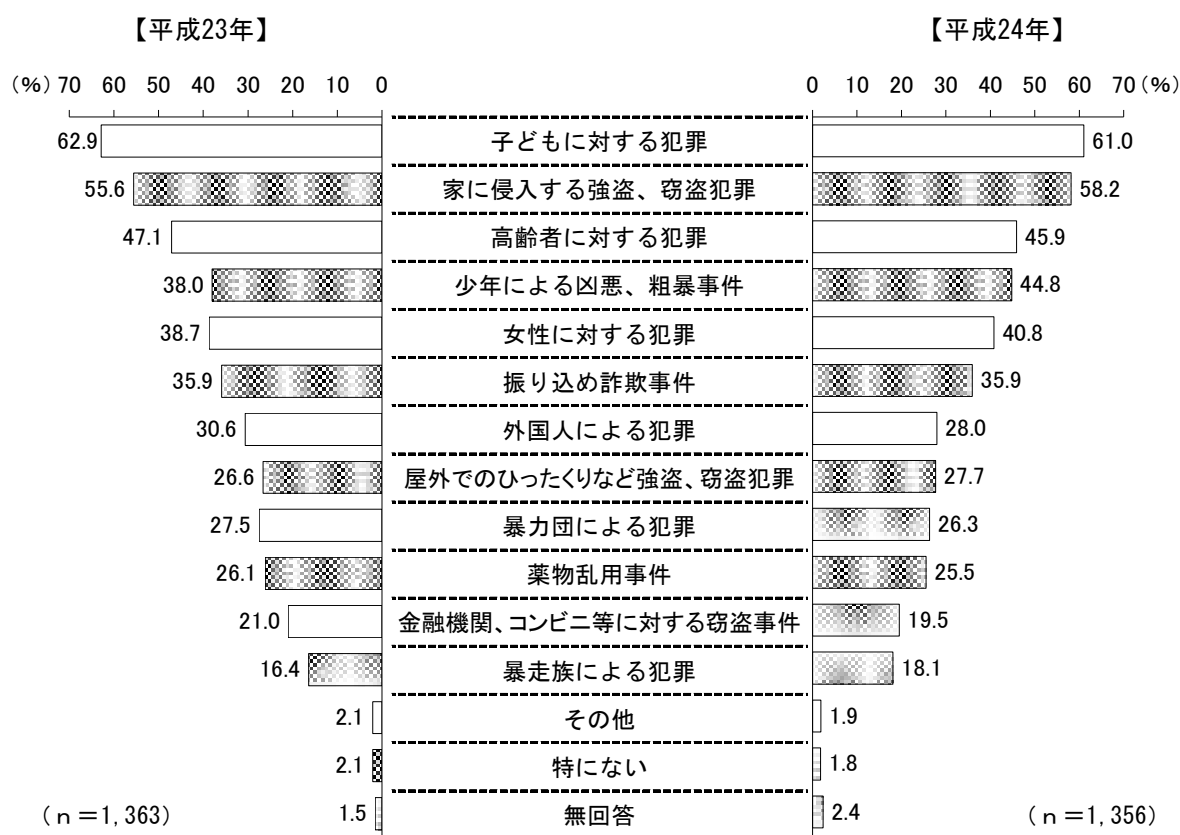
市郡別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

## (2) 不安を感じる犯罪

問39 あなたは、どのような犯罪に不安を感じますか。次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,356]

1	子どもに対する犯罪	61.0%	8	暴走族による犯罪	18.1%
2	女性に対する犯罪	40.8	9	家に侵入する強盗、窃盗犯罪	58.2
3	高齢者に対する犯罪	45.9	10	屋外でのひったくりなど強盗、窃盗犯罪	27.7
4	金融機関、コンビニ等に対する窃盗事件	19.5	11	薬物乱用事件	25.5
5	少年による凶悪、粗暴事件	44.8	12	振り込め詐欺事件	35.9
6	外国人による犯罪	28.0	13	その他	1.9
7	暴力団による犯罪	26.3	14	特にない	1.8
				(無回答)	2.4

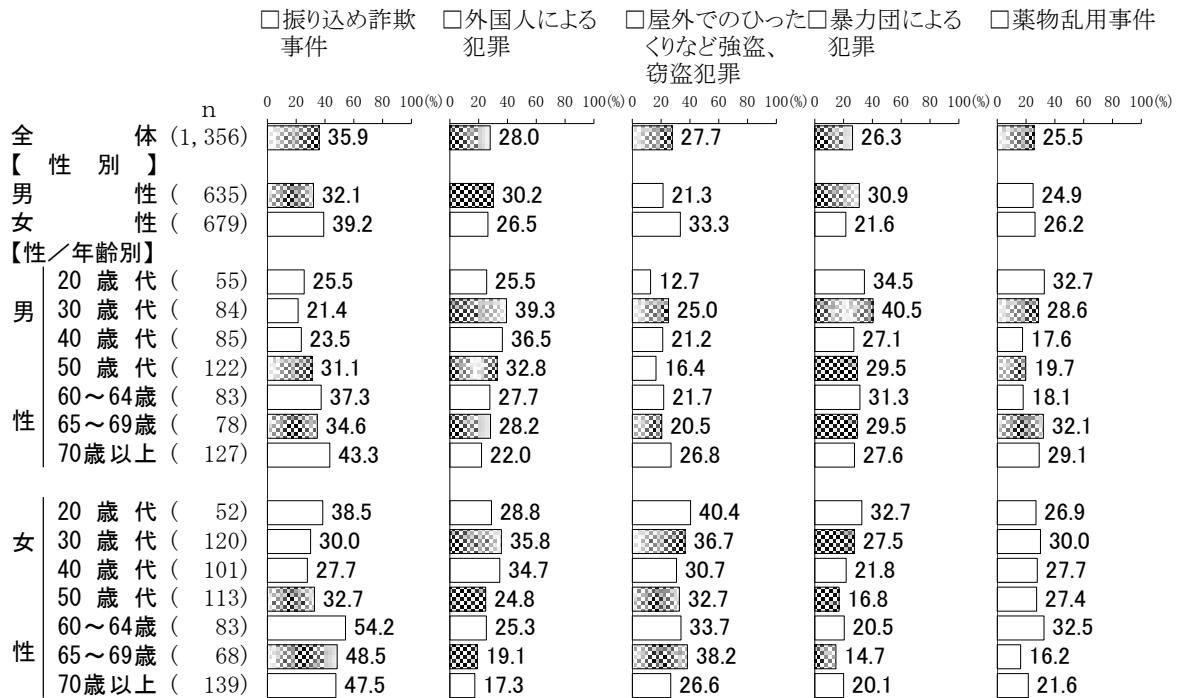
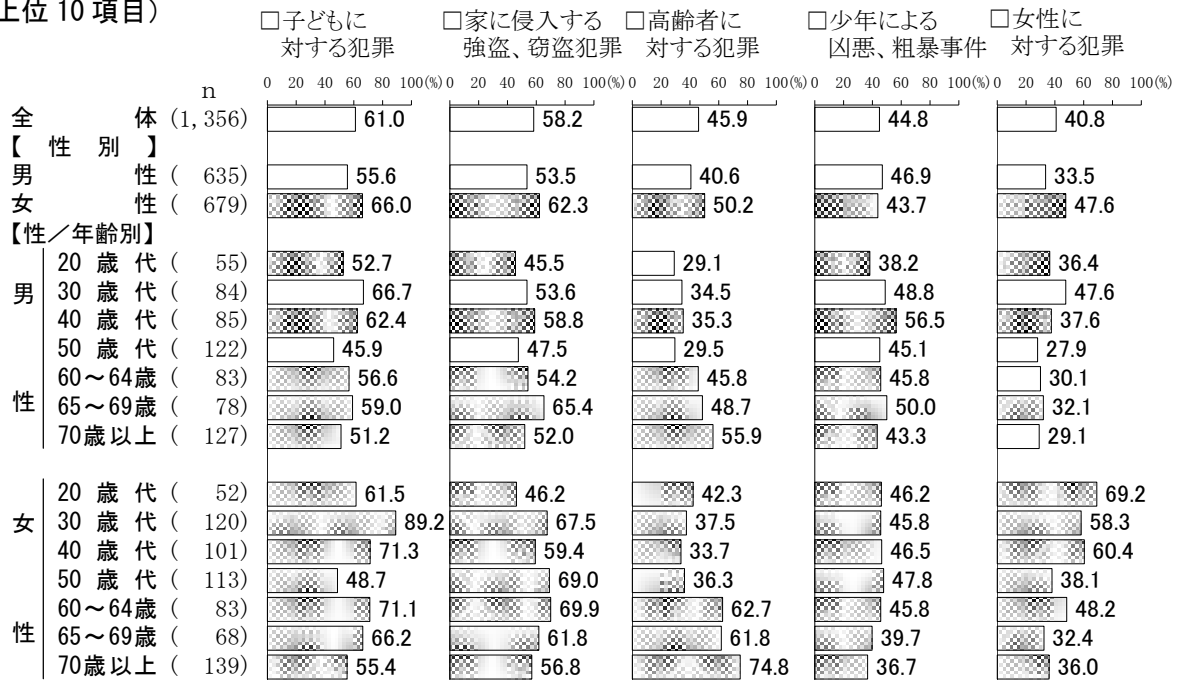


全体で見ると、「子どもに対する犯罪」(61.0%)が6割を超えて最も高く、次いで「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」(58.2%)、「高齢者に対する犯罪」(45.9%)、「少年による凶悪、粗暴事件」(44.8%)、「女性に対する犯罪」(40.8%)、「振り込め詐欺事件」(35.9%)の順となっている。

前回(平成23年)の調査結果と比較すると、「少年による凶悪、粗暴事件」が6.8ポイント増加している。

[性別・性/年齢別]

(上位 10 項目)

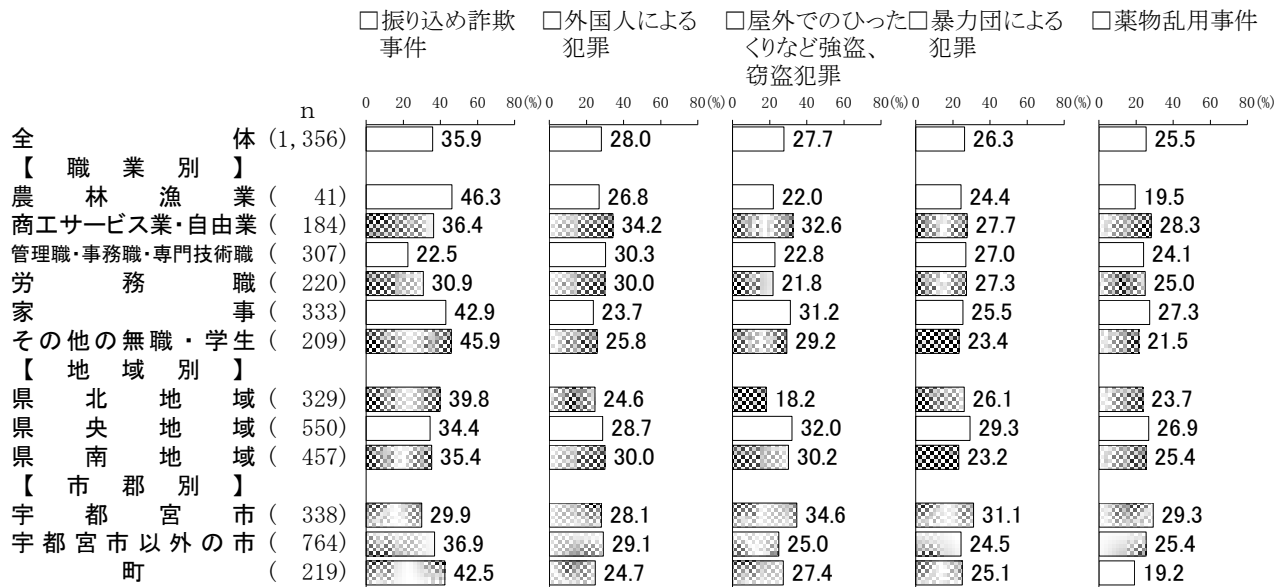
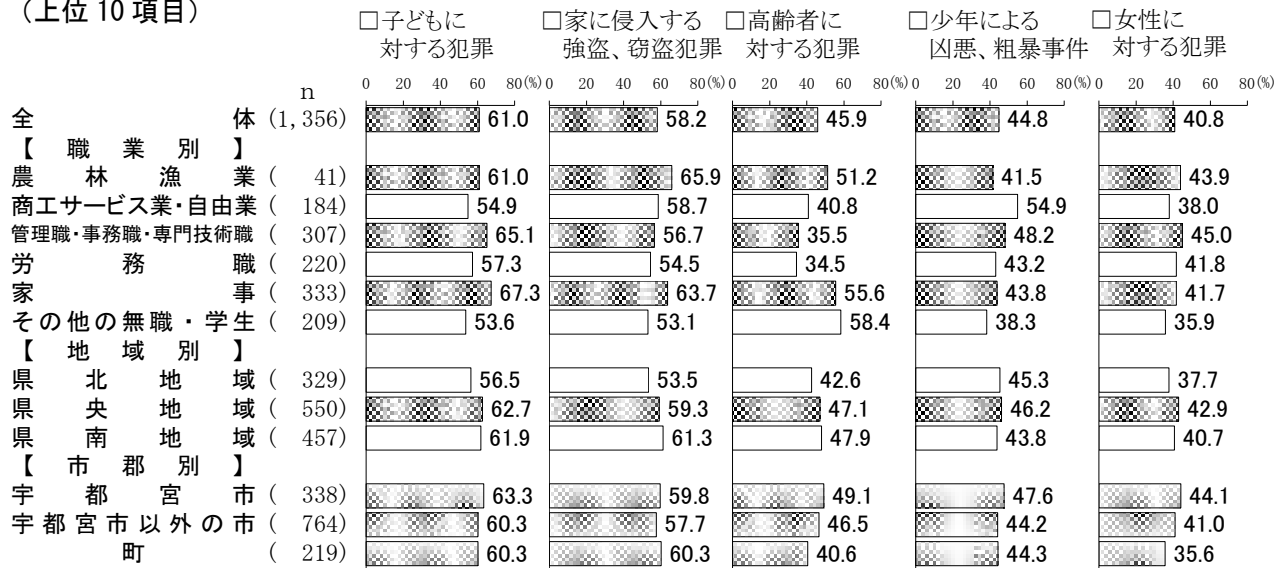


性別で見ると、「女性に対する犯罪」では〈女性〉(47.6%)が〈男性〉(33.5%)より14.1ポイント、「屋外でのひったくりなど強盗、窃盗犯罪」では〈女性〉(33.3%)が〈男性〉(21.3%)より12.0ポイント高く、男女間の差が大きくなっている。

性/年齢別で見ると、「子どもに対する犯罪」では〈女性30歳代〉が89.2%、「高齢者に対する犯罪」では〈女性70歳以上〉が74.8%、「少年による凶悪、粗暴事件」では〈男性40歳代〉が56.5%、「女性に対する犯罪」では〈女性20歳代〉が69.2%、「振り込め詐欺事件」では〈女性60~64歳〉が54.2%と高くなっている。

[職業別・地域別・市郡別]

(上位 10 項目)



職業別でみると、「高齢者に対する犯罪」では〈その他の無職・学生〉が 58.4%、「少年による凶悪、粗暴事件」では〈商工サービス業・自由業〉が 54.9%と高くなっている。また、「振り込め詐欺事件」では〈農林漁業〉が 46.3%、〈その他の無職・学生〉が 45.9%と高くなっている。

地域別でみると、「屋外でのひったくりなど強盗、窃盗犯罪」では〈県央地域〉(32.0%)、〈県南地域〉(30.2%) に比べて〈県北地域〉(18.2%) で割合が低くなっている。

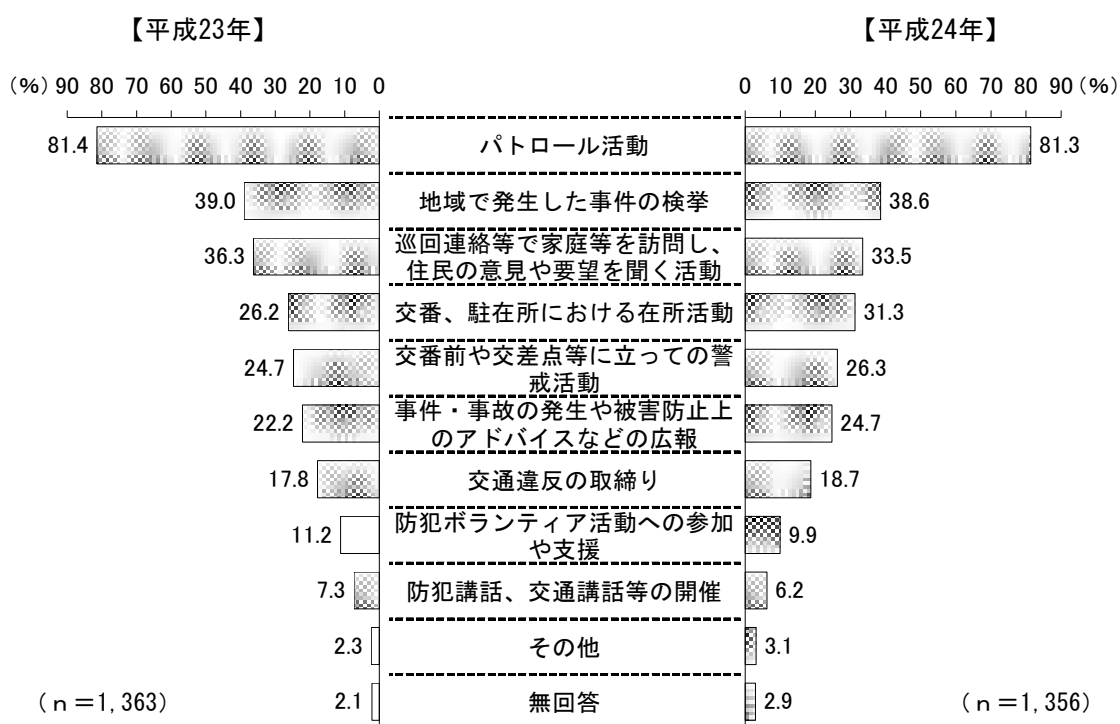
市郡別でみると、「振り込め詐欺事件」では〈町〉が 42.5%、「屋外でのひったくりなど強盗、窃盗犯罪」では〈宇都宮市〉が 34.6%と高くなっている。

### (3) 交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動

問40 あなたが、交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動は何ですか。  
次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,356]

1	パトロール活動	81.3%
2	交番、駐在所における在所活動	31.3
3	巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動	33.5
4	交番前や交差点等に立っての警戒活動	26.3
5	事件・事故の発生や被害防止上のアドバイスなどの広報	24.7
6	地域で発生した事件の検挙	38.6
7	交通違反の取締り	18.7
8	防犯講話、交通講話等の開催	6.2
9	防犯ボランティア活動への参加や支援	9.9
10	その他	3.1
	(無回答)	2.9

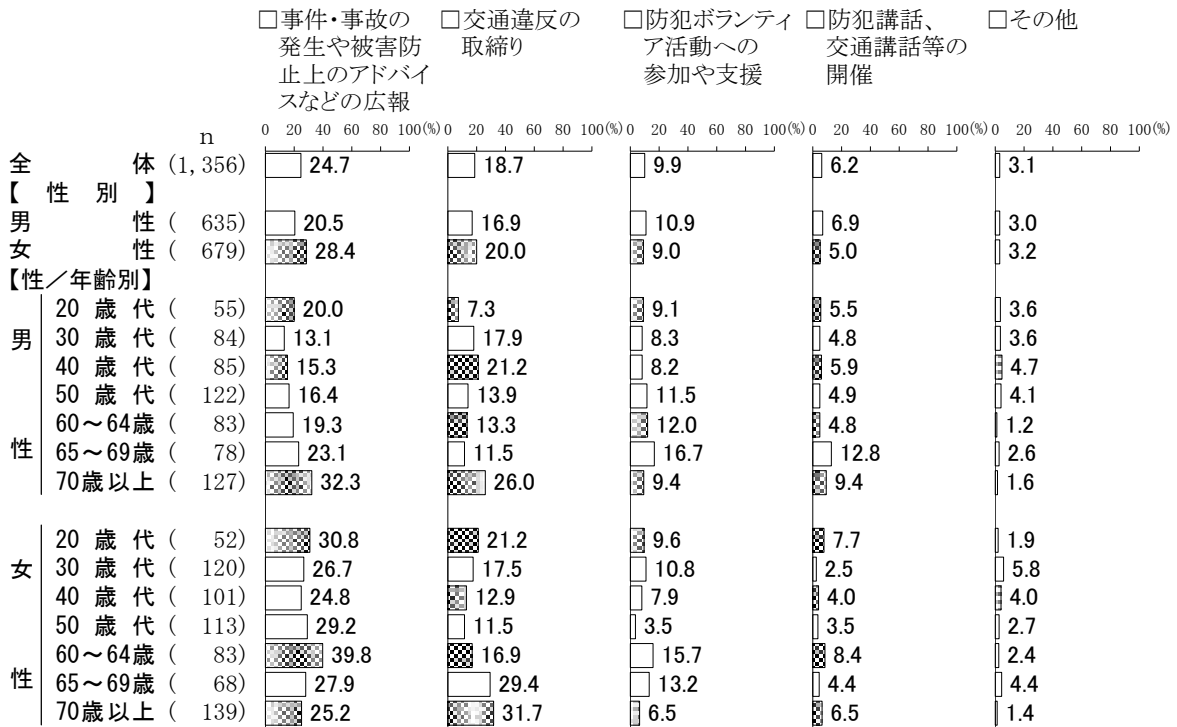
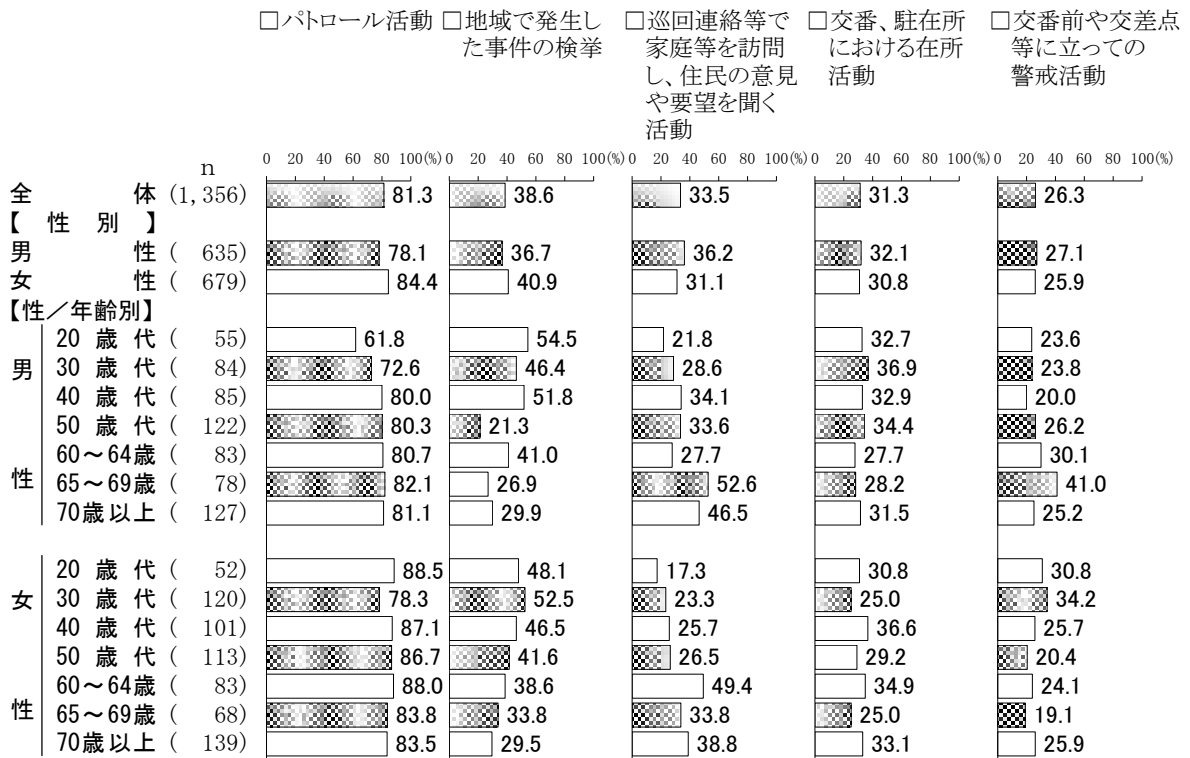


全体で見ると、「パトロール活動」(81.3%)が8割を超えて最も高く、次いで「地域で発生した事件の検挙」(38.6%)、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」(33.5%)、「交番、駐在所における在所活動」(31.3%)、「交番前や交差点等に立っての警戒活動」(26.3%)、「事件・事故の発生や被害防止上のアドバイスなどの広報」(24.7%)の順となっている。

前回(平成23年)の調査結果と比較すると、「交番、駐在所における在所活動」が5.1ポイント増加している。



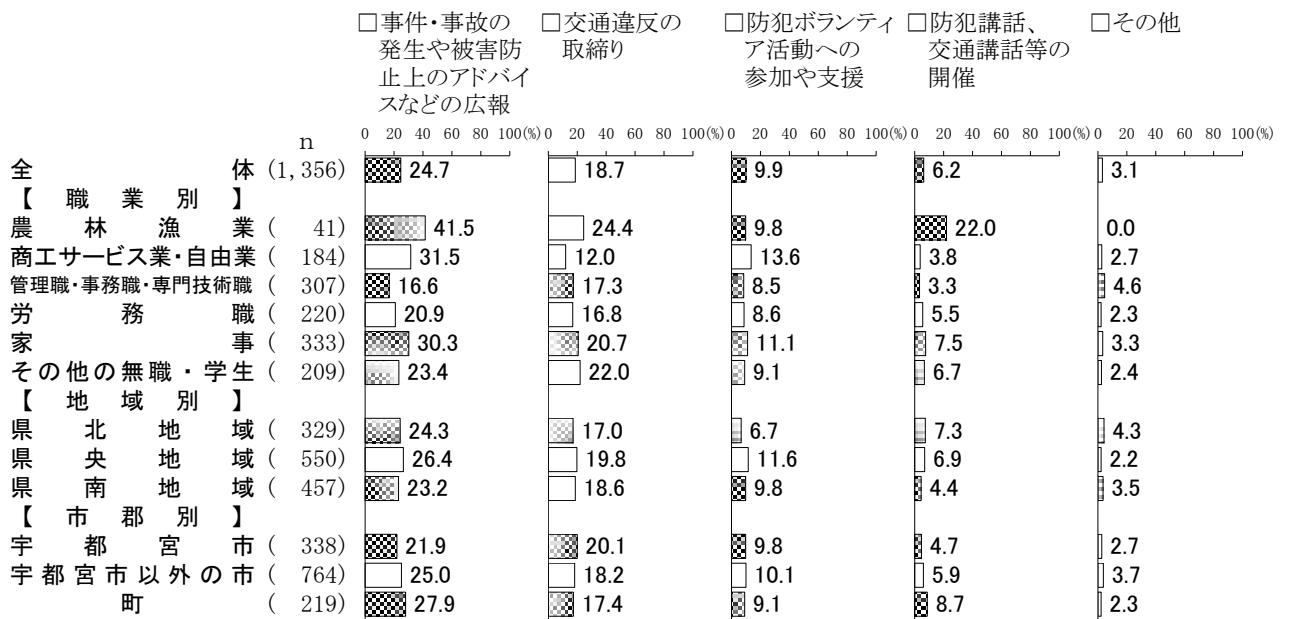
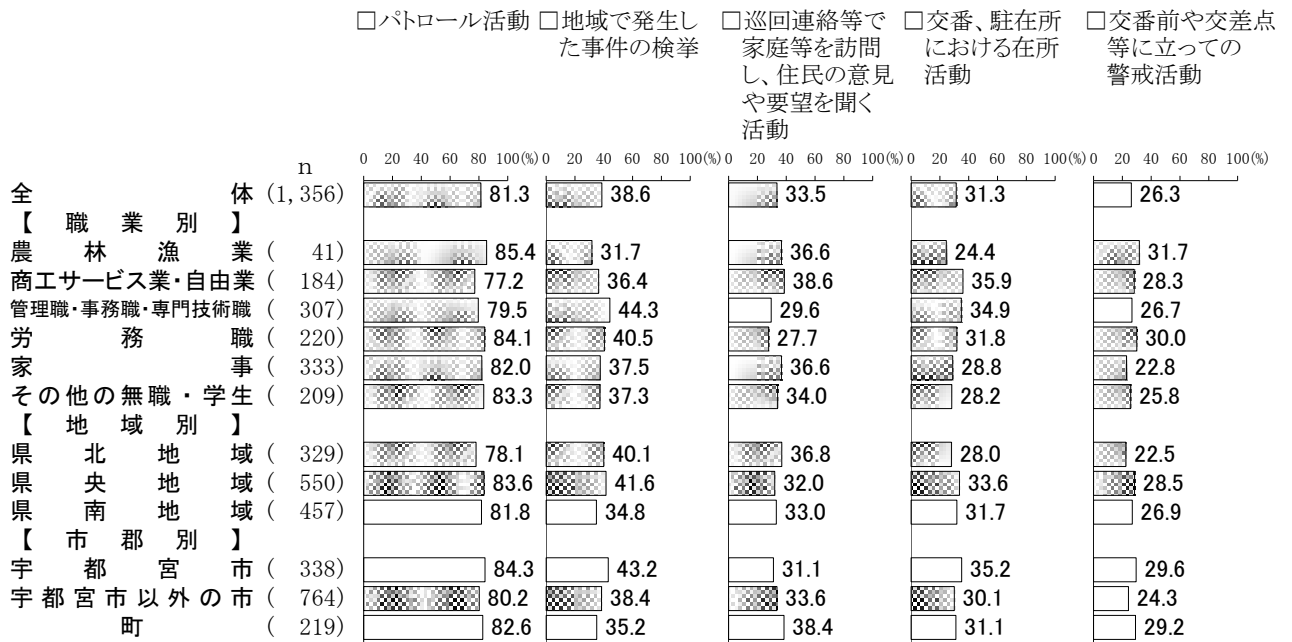
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「事件・事故の発生や被害防止上のアドバイスなどの広報」では〈女性〉(28.4%)が〈男性〉(20.5%)より7.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「地域で発生した事件の検挙」では〈男性20歳代〉が54.5%、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈男性65～69歳〉が52.6%、「事件・事故の発生や被害防止上のアドバイスなどの広報」では〈女性60～64歳〉が39.8%と高くなっている。

[職業別・地域別・市郡別]



職業別でみると、「事件・事故の発生や被害防止上のアドバイスなどの広報」では〈農林漁業〉が41.5%、「防犯講話、交通講話等の開催」では〈農林漁業〉が22.0%と他の職業に比べて高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市郡別でみると、「巡回連絡等で家庭等を訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」では〈町〉が38.4%、「交番、駐在所における在所活動」では〈宇都宮市〉が35.2%、「事件・事故の発生や被害防止上のアドバイスなどの広報」では〈町〉が27.9%と高くなっている。

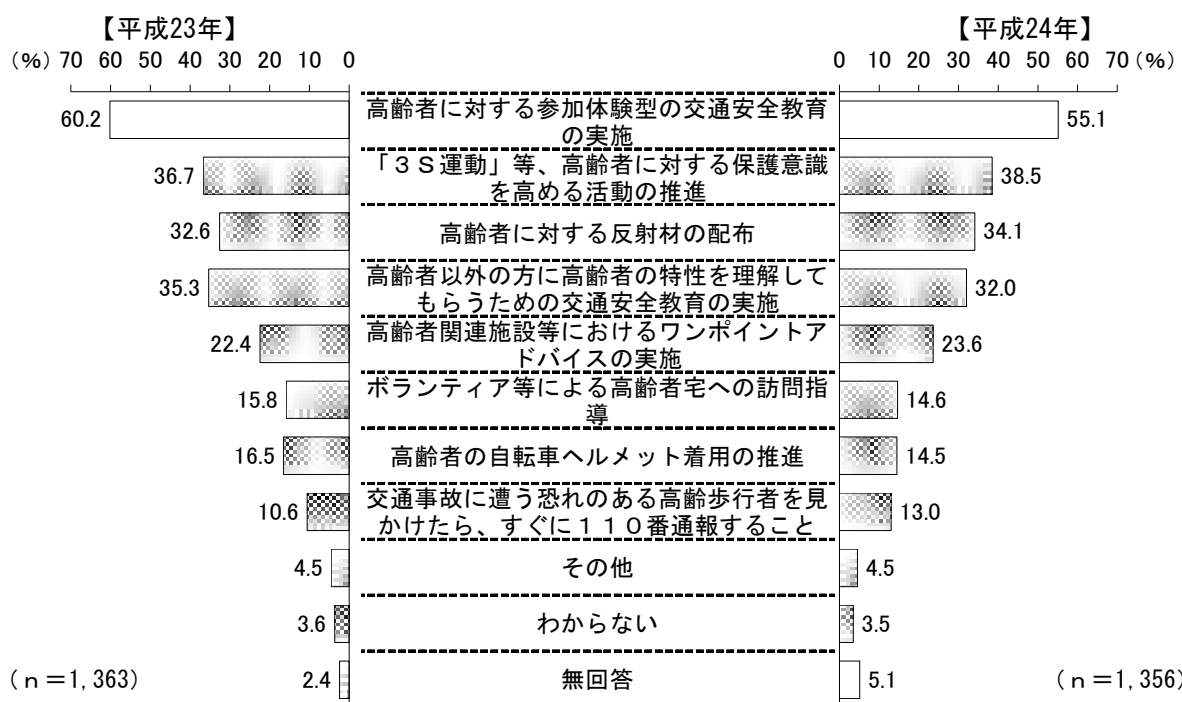
#### (4) 高齢者の交通事故防止のために必要な対策

問41 高齢者が交通事故の当事者になる割合が増えています。高齢者の事故を防止するため、あなたは何が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

[n=1,356]

1	高齢者に対する参加体験型の交通安全教育の実施	55.1%
2	高齢者に対する反射材の配布	34.1
3	ボランティア等による高齢者宅への訪問指導	14.6
4	高齢者関連施設等におけるワンポイントアドバイスの実施	23.6
5	高齢者の自転車ヘルメット着用の推進	14.5
6	「3S運動」(※)等、高齢者に対する保護意識を高める活動の推進	38.5
7	高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施	32.0
8	交通事故に遭う恐れのある高齢歩行者を見かけたら、すぐに110番通報すること	13.0
9	その他	4.5
10	わからない	3.5
	(無回答)	5.1

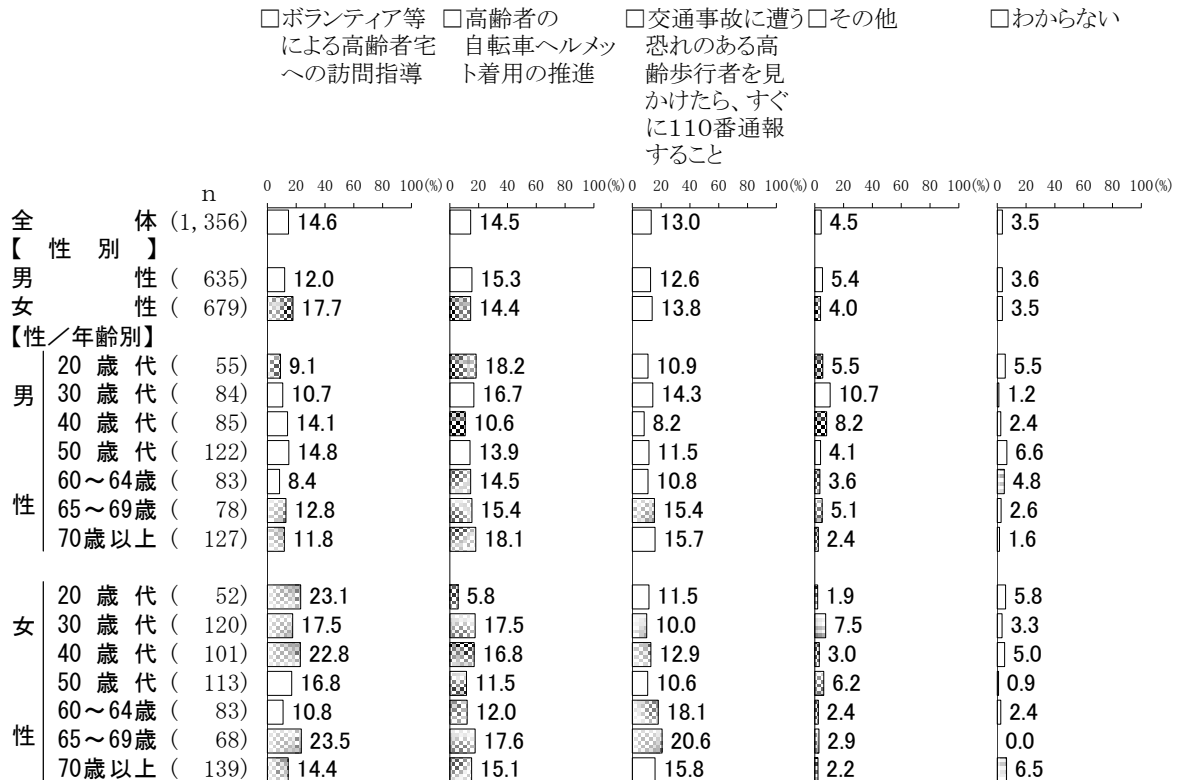
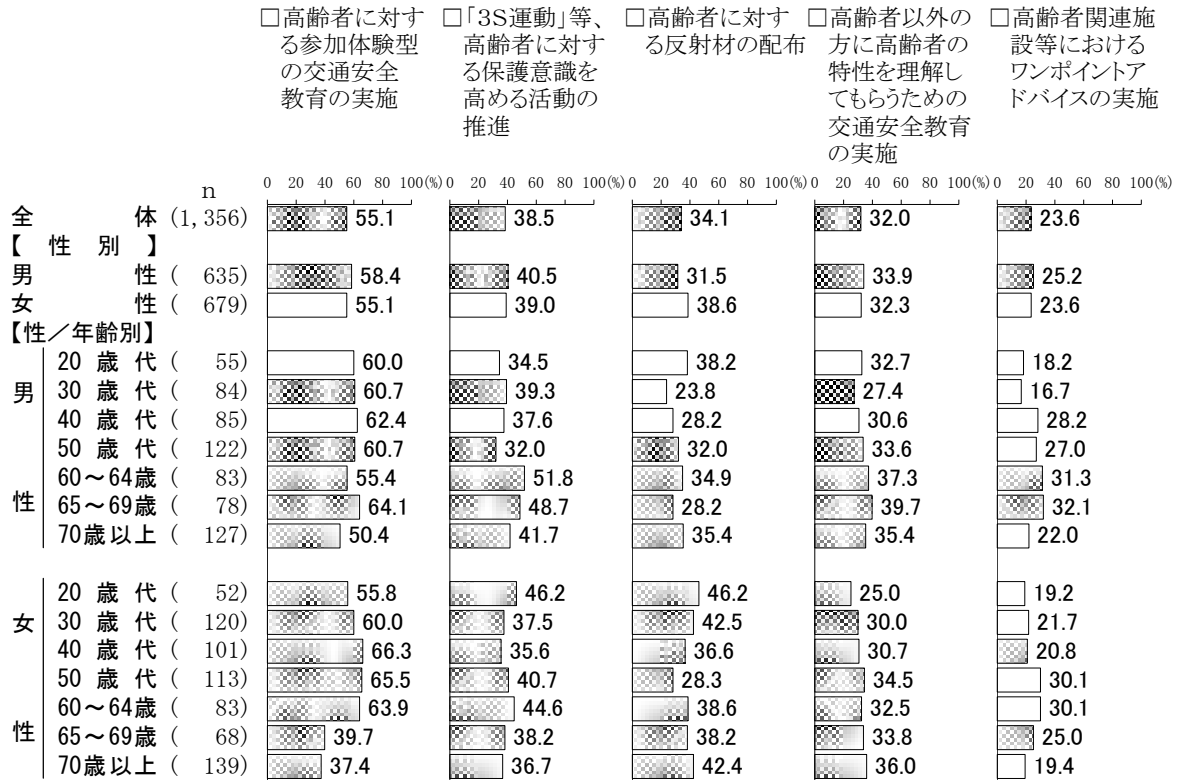
※3S(スリーエス)とは、SEE(見る)、SLOW(減速する)、STOP(止まる)の頭文字をとったものです。



全体でみると、「高齢者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」(55.1%)が5割半ばで最も高く、次いで「『3S運動』等、高齢者に対する保護意識を高める活動の推進」(38.5%)、「高齢者に対する反射材の配布」(34.1%)、「高齢者以外の方に高齢者の特性を理解してもらうための交通安全教育の実施」(32.0%)、「高齢者関連施設等におけるワンポイントアドバイスの実施」(23.6%)の順となっている。

前回(平成23年)の調査結果と比較すると、「高齢者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」が5.1ポイント減少している。

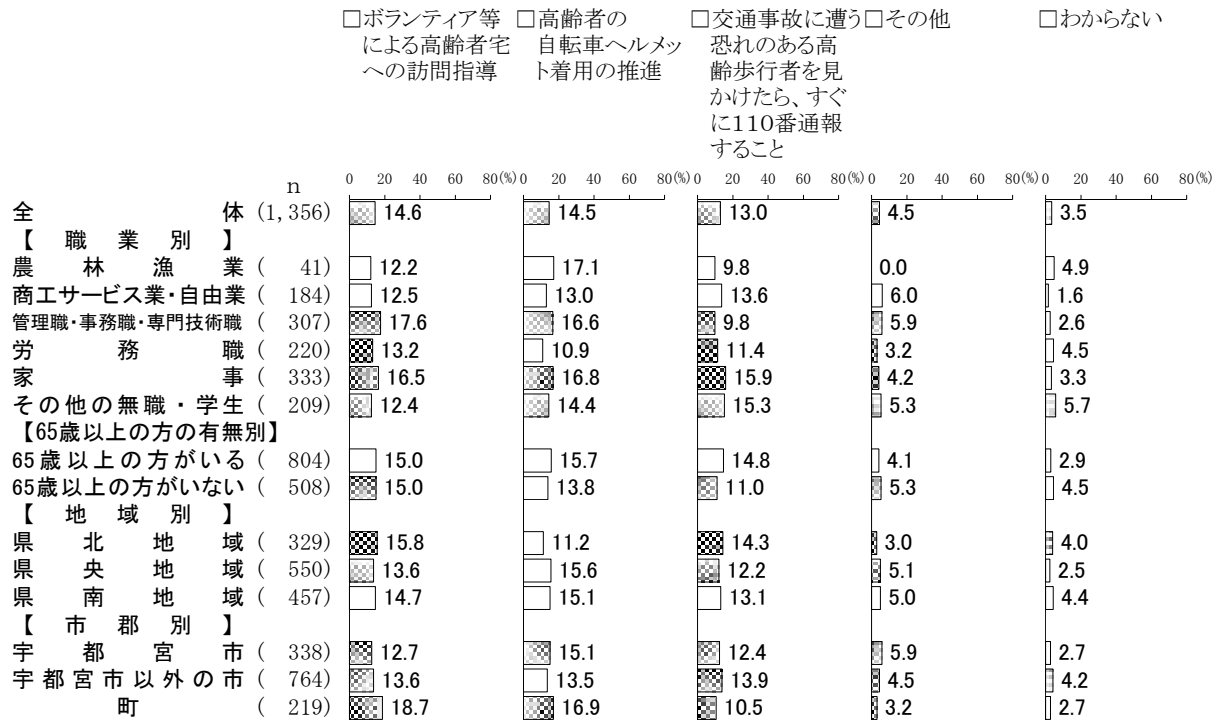
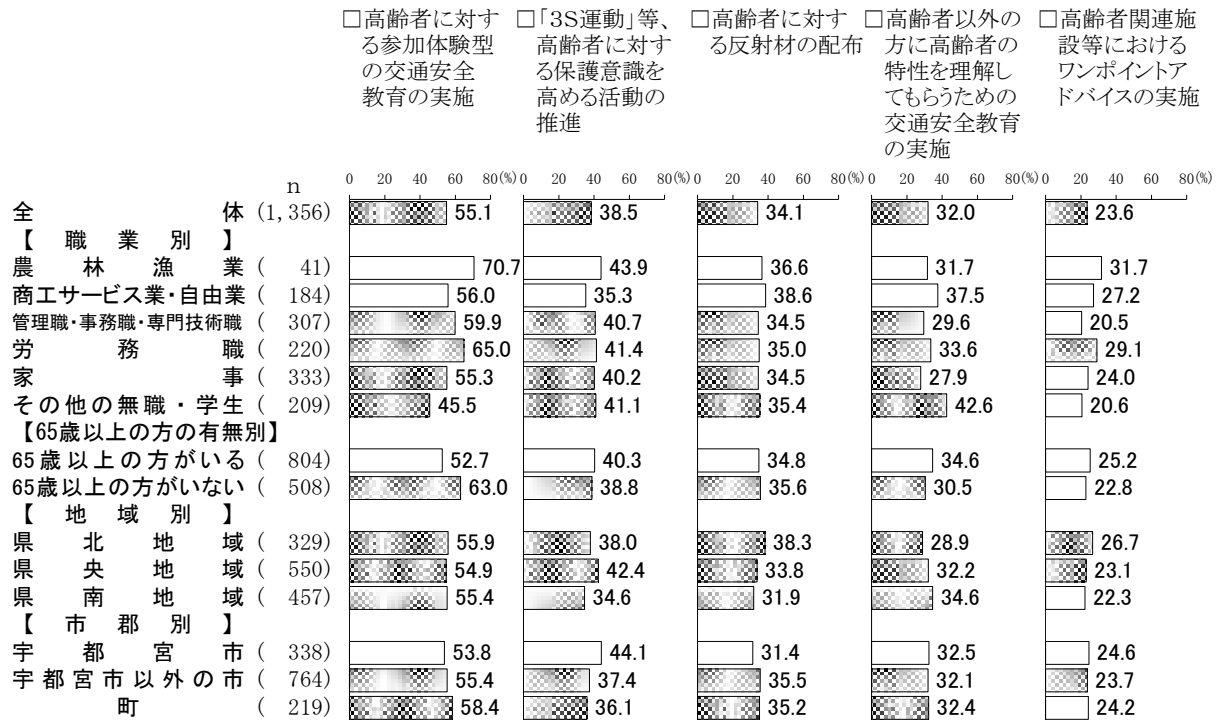
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「高齢者に対する反射材の配布」では〈女性〉(38.6%)が〈男性〉(31.5%)より7.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「『3S運動』等、高齢者に対する保護意識を高める活動の推進」では〈男性60~64歳〉が51.8%と高くなっている。

[職業別・65歳以上の方の有無別・地域別・市郡別]



職業別でみると、「高年齢者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」では〈農林漁業〉が70.7%と高くなっている。

65歳以上の方の有無別でみると、「高年齢者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」では〈65歳以上の方がいない〉(63.0%)の方が〈65歳以上の方がいる〉(52.7%)より10.3ポイント高くなっている。

地域別でみると、「『3S運動』等、高年齢者に対する保護意識を高める活動の推進」では〈県央地域〉が42.4%となっている。

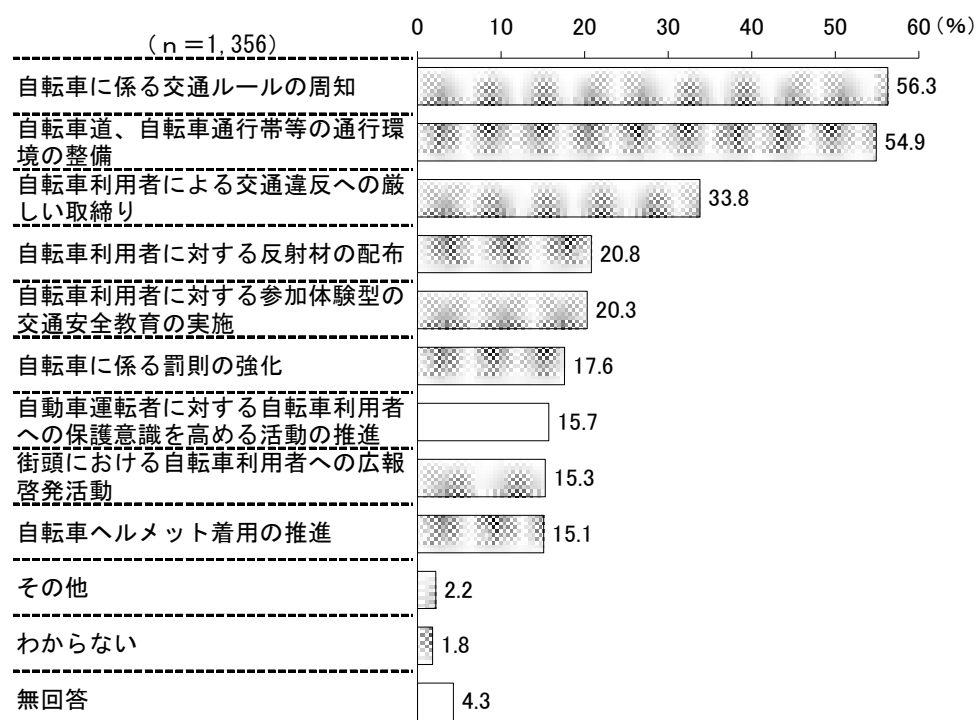
市郡別にみると、「『3S運動』等、高年齢者に対する保護意識を高める活動の推進」では〈宇都宮市〉が44.1%となっている。

## (5) 自転車の安全利用を促進するために必要な対策

問42 あなたは、自転車の安全利用を促進するために何が重要だと思いますか。  
次の中から3つまで選んでください。

[n=1,356]

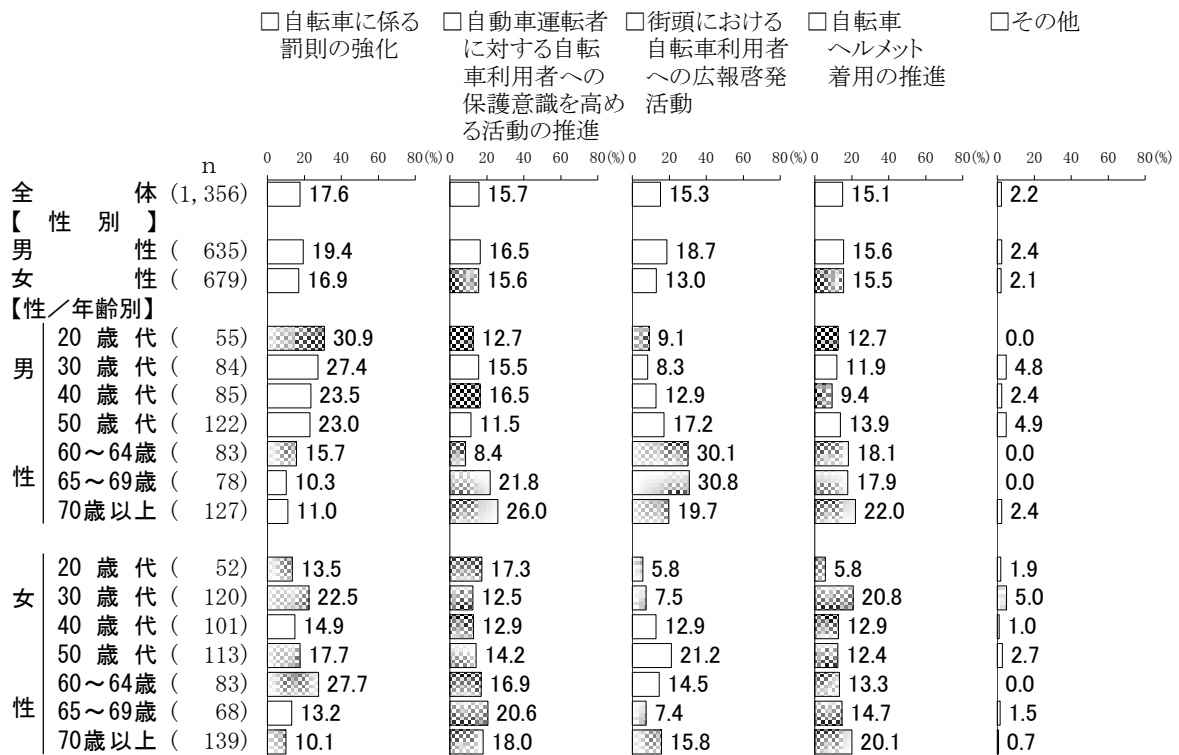
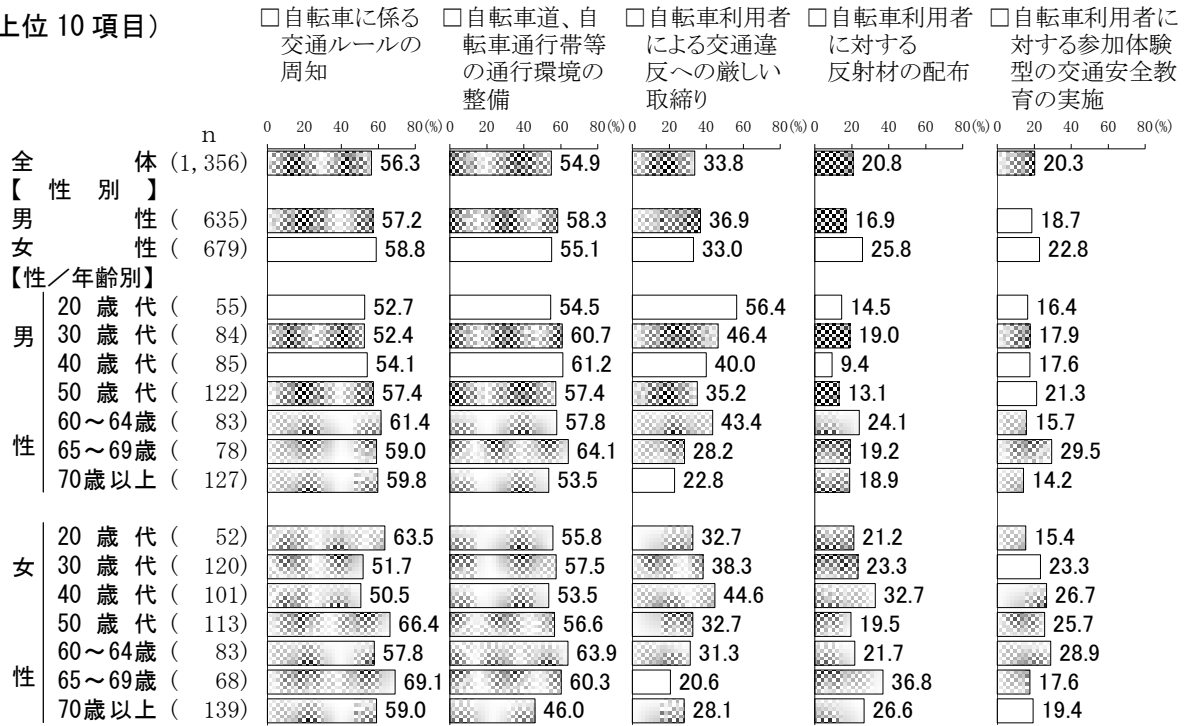
1	自転車に係る交通ルールの周知	56.3%
2	自転車利用者に対する参加体験型の交通安全教育の実施	20.3
3	街頭における自転車利用者への広報啓発活動	15.3
4	自転車利用者に対する反射材の配布	20.8
5	自転車ヘルメット着用の推進	15.1
6	自動車運転者に対する自転車利用者への保護意識を高める活動の推進	15.7
7	自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備	54.9
8	自転車利用者による交通違反への厳しい取締り	33.8
9	自転車に係る罰則の強化	17.6
10	その他	2.2
11	わからない	1.8
	(無回答)	4.3



全体で見ると、「自転車に係る交通ルールの周知」(56.3%)と「自転車道、自転車通行帯等の通行環境の整備」(54.9%)がともに5割半ばで高く、次いで「自転車利用者による交通違反への厳しい取締り」(33.8%)、「自転車利用者に対する反射材の配布」(20.8%)、「自転車利用者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」(20.3%)、「自転車に係る罰則の強化」(17.6%)の順となっている。

[性別・性／年齢別]

(上位 10 項目)

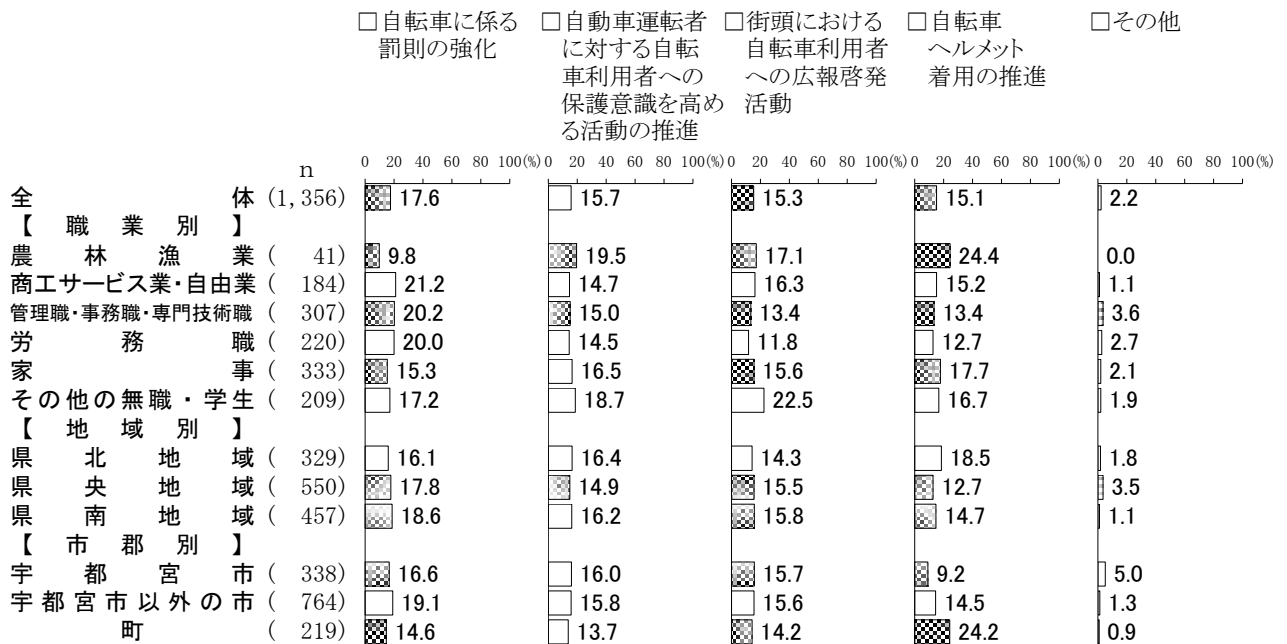
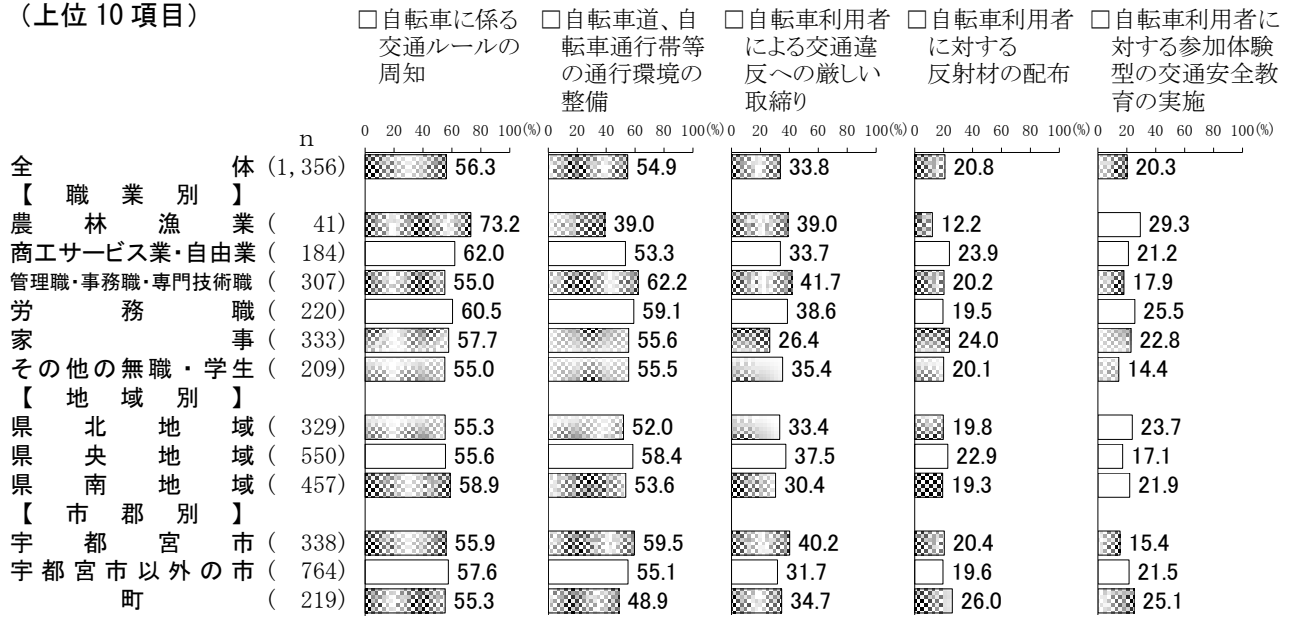


性別でみると、「自転車利用者に対する反射材の配布」では〈女性〉(25.8%)が〈男性〉(16.9%)より8.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「自転車利用者による交通違反への厳しい取締り」では〈男性20歳代〉が56.4%、「自転車利用者に対する反射材の配布」では〈女性65~69歳〉が36.8%、「街頭における自転車利用者への広報啓発活動」では〈男性60~64歳〉が30.1%、〈男性65~69歳〉が30.8%となっている。

[職業別・地域別・市郡別]

(上位 10 項目)



職業別でみると、「自自転車に係る交通ルールの周知」では〈農林漁業〉が 73.2%、「自自転車利用者に対する参加体験型の交通安全教育の実施」では〈農林漁業〉が 29.3%と高くなっている。

地域別でみると、「自自転車道、自自転車通行帯等の通行環境の整備」では〈県央地域〉が 58.4%、「自自転車利用者による交通違反への厳しい取締り」では〈県央地域〉が 37.5%となっている。

市郡別でみると、「自自転車道、自自転車通行帯等の通行環境の整備」では〈宇都宮市〉が 59.5%、「自自転車利用者による交通違反への厳しい取締り」では〈宇都宮市〉が 40.2%、「自自転車ヘルメット着用の推進」では〈町〉が 24.2%と高くなっている。

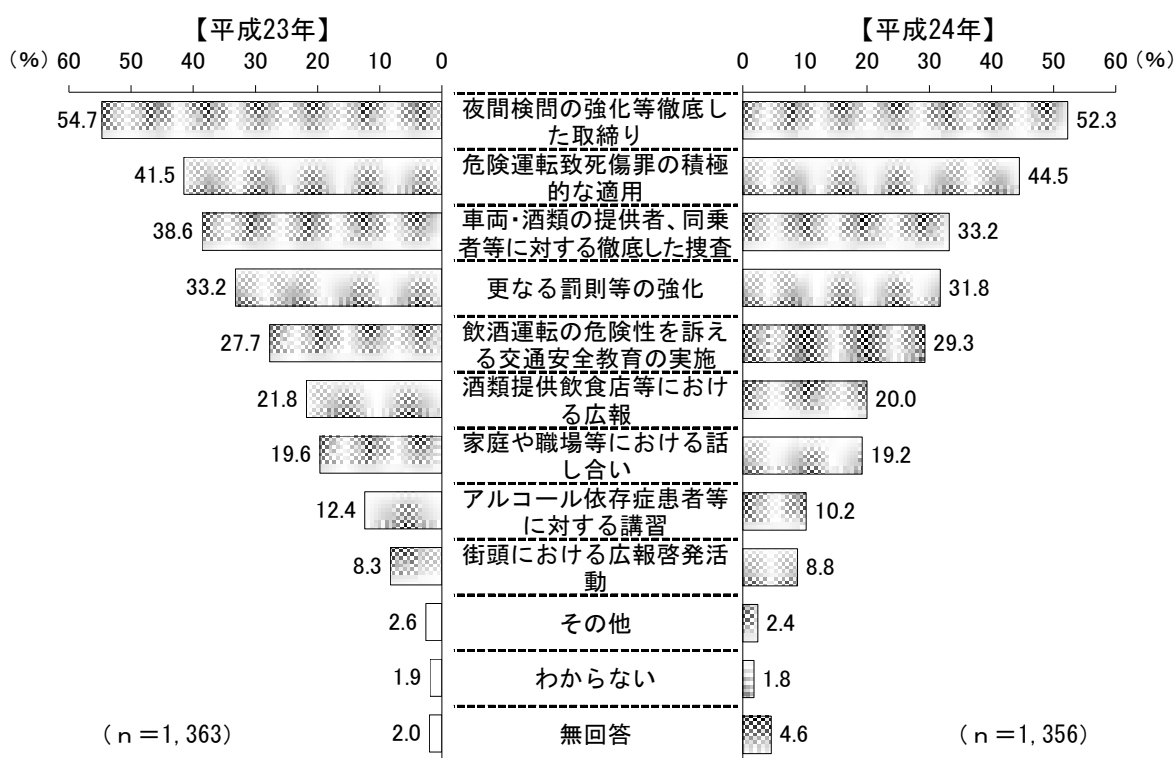


## (6) 飲酒運転根絶のために必要な対策

問43 飲酒運転の罰則や行政処分が強化されましたが、依然として悪質な飲酒運転は後を絶ちません。飲酒運転を根絶するため、あなたはどのような対策が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

[n=1,356]

1	夜間検問の強化等徹底した取締り	52.3%
2	車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査	33.2
3	危険運転致死傷罪の積極的な適用	44.5
4	飲酒運転の危険性を訴える交通安全教育の実施	29.3
5	街頭における広報啓発活動	8.8
6	家庭や職場等における話し合い	19.2
7	酒類提供飲食店等における広報	20.0
8	アルコール依存症患者等に対する講習	10.2
9	更なる罰則等の強化	31.8
10	その他	2.4
11	わからない	1.8
	(無回答)	4.6

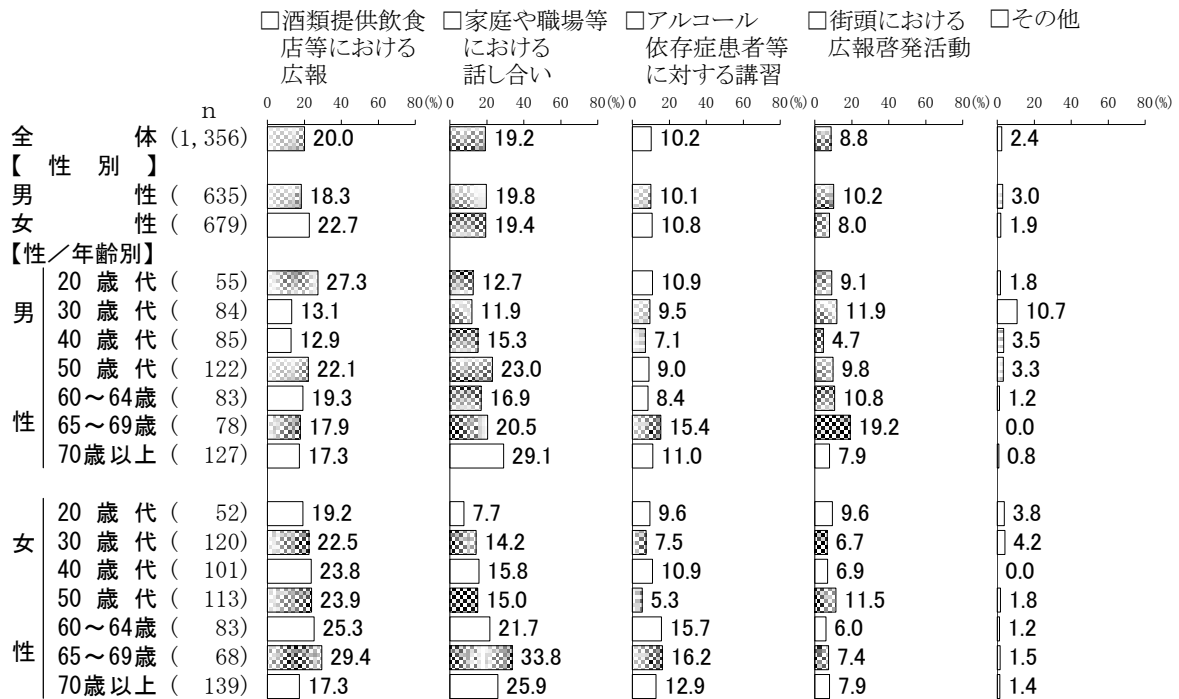
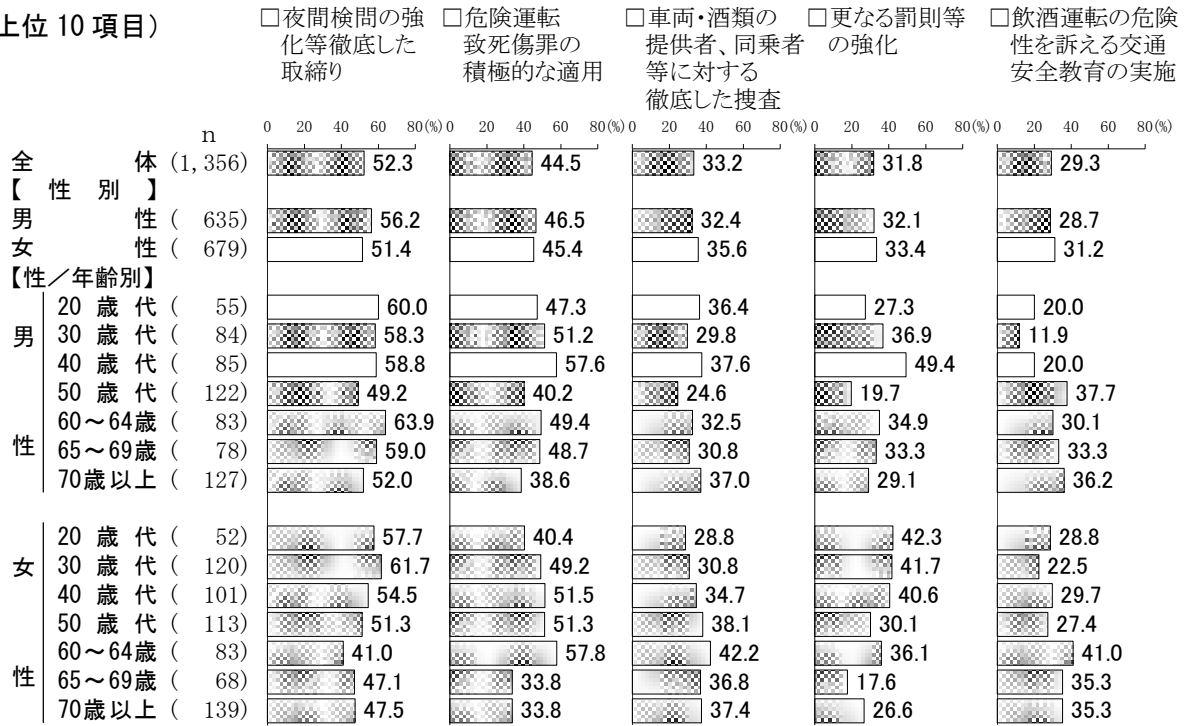


全体で見ると、「夜間検問の強化等徹底した取締り」(52.3%)が5割を超えて最も高く、次いで「危険運転致死傷罪の積極的な適用」(44.5%)、「車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査」(33.2%)、「更なる罰則等の強化」(31.8%)の順となっている。

前回(平成23年)の調査結果と比較すると、「車両・酒類の提供者、同乗者等に対する徹底した捜査」は5.4ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]

(上位 10 項目)

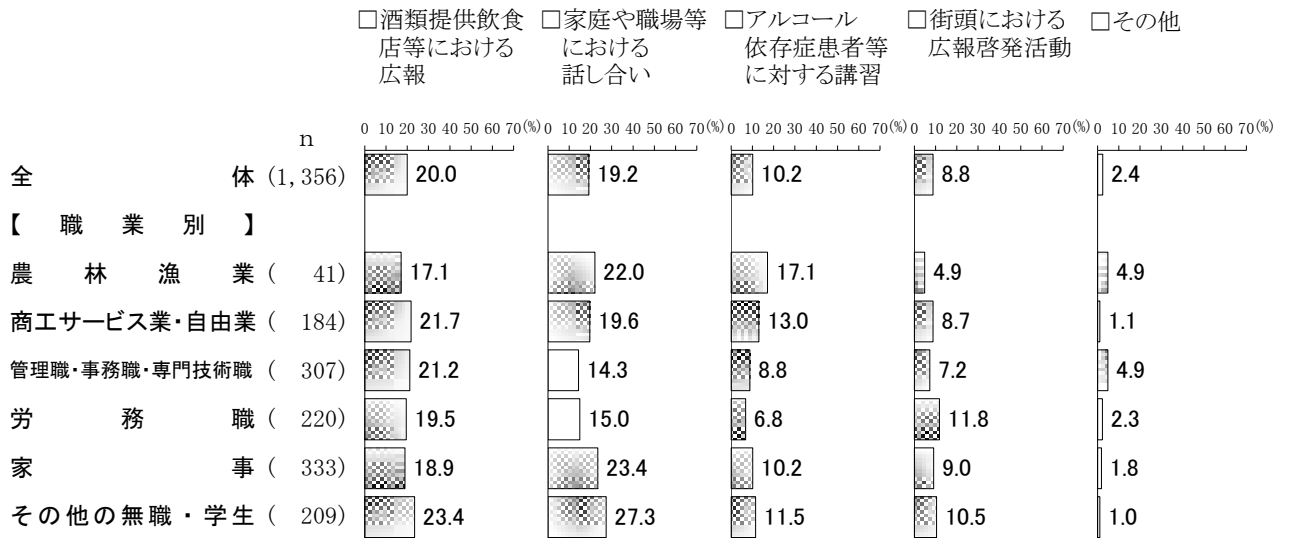
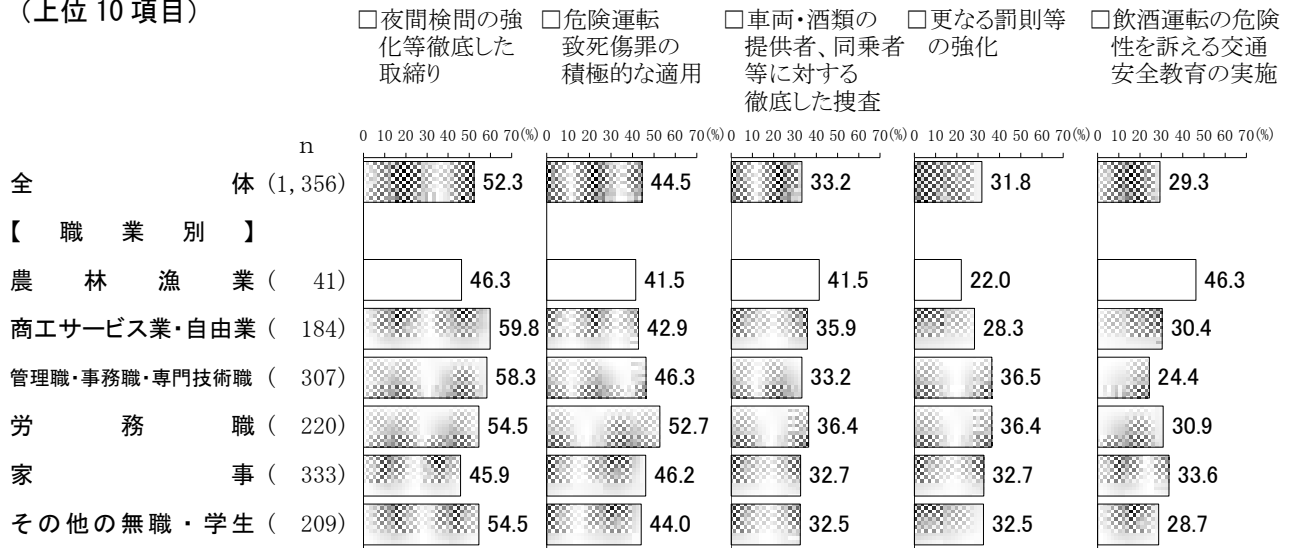


性別でみると、「夜間検問の強化等徹底した取締り」では〈男性〉(56.2%)が〈女性〉(51.4%)より4.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「夜間検問の強化等徹底した取締り」では〈男性 60~64歳〉が63.9%、「危険運転致死傷罪の積極的な適用」では〈女性 60~64歳〉が57.8%、〈男性 40歳代〉が57.6%となっている。「更なる罰則等の強化」では〈男性 40歳代〉が49.4%、「家庭や職場等における話し合い」では〈女性 65~69歳〉で33.8%となっている。

[職業別]

(上位 10 項目)



職業別でみると、「夜間検問の強化等徹底した取締り」では〈商工サービス業・自由業〉が 59.8%、「危険運転致死傷罪の積極的な適用」では〈労務職〉が 52.7%、「飲酒運転の危険性を訴える交通安全教育の実施」では〈農林漁業〉が 46.3%と高くなっている。